

一得一失

大騒ぎをした総選挙も終わり、「改革」が叫ばれ、造反、刺客、落下傘候補、美しきマドンナ候補、様々な言葉が飛び交いました。結構ずくめの公約、それらが実現すればよろしいのですが、世の中そんな甘言ではすまされないことは、過去の歴史が証明しています。

良いことずくめはそうある事ではないのです。どちらかと言いますと、私たちの人生は苦しく、悲しい事が圧倒的に多いようです。「苦しきことのみ多かりし」が、人生の実相のようです。

昔の人は「二ついいこと、はて、ないものよ」と言いましたが、うまいことを言ったと思えます。これは「いいことずくめの事はない」ということでしよう。単純なことかもしれませんが、これが、これは人生の真実です。昔と比較をすれば、今は万事に便利な世の中となりましたが、便利と感ずるのは、それ以前の不便な生活を知っているからなのでしよう。便利な世の中に生まれた方々は何が便利なのか、不便なのかも解らないのかもしれませんが。水くみも、井戸からポンプ、そして水道へ、ひねったら水が出たうれしさを、私も思い出します。

テレビが出てきて毎日、動画が茶の間で見られる、ランプが電球になり、自分の足で歩いていたのが、自動車で移動するようになり、ほうきが掃除機に代わり、タイヤが洗濯機に代わった、タイヤなどはもう死語になってしまいましたね。肉体的には何と楽になったことでしょうか。しかしよく考えますと、それら得たものの大きさと引き換えに失ったものの大きさに気づかされます。「二ついいこと、はてないものよ」は、「一得一失」ということであります。

機械でこの原稿を書いています、手でしっかりと漢字は忘れ書けなくなりました。車の発達は歩くことを忘れさせました。現代病と言われる糖尿病患者数はその国の車の所有台数に比例するという統計まであります。携帯電話は日本の文化さえも変えてしまったようです。それらの便利なモノが私たちの生活を変えてしまったのは確かでありましょう。

昔は良かったなどと嘆いてみても、今の便利さを望んだのは私自身なのです。便利さを手に入れた代わりとして、失ったモノの大きさを思います。今日都会では、人間も、植物も「自然」に生きる環境にはないようです。以前「四日市市喘息」の問題で街の職員が「スモッグの下でビフテキを食べるか、青空の下で梅干しをしゃぶるのか、どっちを選ぶのか」と問うた事はいまでも私たちの大きな課題のようです。得ることのみを考えて、失うモノの大きさを考えなかつたのかもしれないね。今の日常を昔に戻す事などは出来ないことではしよう。私の持っている欲望の深さ、これは「煩惱の深さ」でもありません。

しかしその私の「煩惱の深さ」に気づいていくことが、今、求められているように思えますのです。「私が生きている」「ことが世の中のためになっっているなど考えることは、人間の傲慢さなのかもしれません。頭が下がり、謝して生きていく以外に人間が人間として生きる道が無いことを仏法は気づかせます。「生の充実のみが幸福である」という安易さが、どれだけ多くの犠牲に成り立っているか、失われたモノにもっと目を注げたらと思えますが・・・

平成十七年 十月

北広島市大曲緑ヶ丘二丁目十六ー一 三七六一二二五五

浄土真宗本願寺派 興徳寺